

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 行政・系統が一体となった空知ワイン振興への取組み
JA名 JAいわみざわ (北海道)

1 動機 (経緯)	岩見沢市周辺では、ワイン用ブドウ栽培および醸造に係る歴史は比較的浅いですが、新規参入が増加しています。JAは地区の農業振興の立場から、地場のワインを中核とした地域の活性化に向けて、行政及び系統金融機関も含め一体となり資金面を含めた新規就農者支援等を行っています。
2 概要	(1) JAの醸造用ブドウ生産農家に対する支援内容 ①経営計画策定に係る支援、系統資金供給に係る窓口 ②資金借入にかかる必要手続等の実務支援 ③法人設立にかかる支援や相談 ④新規就農時の研修実施窓口 ⑤肥料・農薬等の農業関係資材の供給 ⑥Aコープ、インターネットストアを経由した岩見沢ワインの販売 (2) 地元行政の醸造用ブドウ生産農家に対する支援内容 ・空知総合振興局 ①ぶどう栽培、ワイン栽培、販売拡大等に関する総合的な支援窓口 ②補助事業（農業主導型6次産業化整備事業等）の相談 ・岩見沢市 ①ワイナリー建設地の斡旋、施設購入にあたっての物件紹介等 ②新規就農に係る各種手続の支援
3 成果 (効果)	(1) 著名な外国人醸造家の新規就農、ワイナリー建設に際し、初期段階より各支援体制により相談・支援を継続し、資金対応に至っています。 ・信連、日本公庫によるワイナリー設備資金の協調融資 ・農林中金による運転資金対応、アグリシードファンドの対応 (2) ぶどう栽培の新規参入増加による中山間地域農地の有効活用 (3) 空知ワインの知名度向上による地域活性化
4 今後の 予定 (課題)	・支援済みのワイナリーに対する継続的なフォロー、取引の深耕。 ・ブドウ栽培農家に対する営農面、金融面の相談ノウハウの蓄積。 ・地区の新規就農ワイン農家に対する支援。 ・継続した行政との連携による6次産業化等への発展。

<参考>当地区のブドウ生産、ワイン醸造に係る現状

- ・ワイナリー : 3軒 (山崎、宝水、10R)
- ・ブドウ生産者: 加工用 17軒 (毛陽、三笠、栗沢地区)
生食用 5軒 (毛陽地区)

※JAいわみざわの新規就農者数 (H19年度以降) 8軒の内、4軒がワイン (ぶどう) 関係